

木馬会会報(第4号)

ダービー特集

～木馬たちの予走(ダービー編)～

予走者 覆面デスラー

ダ — ビ —

◎…ナリタブライアン ○…イイデライナー ▲…メルシーステージ

×…サクラエイコウオー △…ナムラコクオー

…予走者の屁理屈…

軸はいうまでもなくNブライアン。鞍上南井は去年マルチマックスで落馬したが、落馬でもしない限り連軸は不動。注目は2着狙いだが、どれも横一線。今回は皐月賞のような乱ペースになることはまずない。大きく荒れることはないだろう。しかしNブライアン以外の有力馬はどれも距離に一抹の不安が有り、唯一マイナス材料のないのが1ライナー。皐月賞は惨敗したが、調子落ちが原因。前走復調気配を示し、距離が延びるとあっては2着狙いのこの馬のじり脚は驚異だ。次にMステージとSエイコウオー。この両馬は折り合さえつければ血統的に距離は間違いない。折り合った時の両馬を押さえる。当然Nコクオーを実績から消すことは出来ないが。ただし、追い切り次第で○～△の順序の変更はあり得る。

ダービー資金を稼ぎたい人へもってこいのレース。日曜5R駒草賞。

◎…イブキダイハーン ○…インターライナー ▲…ミヤノオー

この3点買いをお勧めします。

予想者 T P

ダ — ビ —

◎…ナリタブライアン

△…ナムラコクオー、アイネスサウザー、イイデライナー、エアダブリン、スギノブルボン
ヤシマソブリン、セントギャロップ、ノーザンボラリス

…予走者の屁理屈…

Nブライアンに對抗、単穴なんかいいるはずがない。すべて着穴。去年10月、福島競馬場で、
“お前はこんな所で走ってちゃ行けない。器が違うんだ。”と思い、その期待通りきんもく
せい特別を楽勝したお前が俺を裏切るわけがない。アクシデントがない限り勝つのはこの馬。
相手もほとんどNコクオーで決まり。実績が違い過ぎる。ただ、Nコクオーの場合、脚に爆
弾を抱えているのでそれが再発しないことが条件。まあ、こういうマイナー血統の馬は、常
に自分の力分は走るもの。もし無謀にもブライアンを負かしにいったら、この2頭の實力に
かなりの開きがあった場合のみ、他の馬の台頭もありえるか。もしコクオーがとんだ場合、2
着争いは熾烈だ。上記7頭にチャンスはあると思うが、できればAダブリンは買いたくない。
穴をあけるのは、何の色気も持たず(持てず?)中股で脚を溜められる調子のいい馬。一番
面白いのはYソブリン。Sギャロップは体重減が止まれば、資金的に辞退馬が出ないと出走
できないが、バンブーフエリーニがでてきたら面白い。しかし、ナムラとの1点買いか(4
倍程度か)、思い切って穴を狙うかだろう。私は自信満々のオークスで屈辱的な惨敗を喫し
たため、今回は見栄も外聞も捨てて当てにいく。ブライアンから上記のすべての馬に流す。

うう…ホ・弱いな

しかしその分ほかのレースで儲けてやる。

土曜10R足政特別or日曜7R富嶽賞…メソソランシュ狙い撃ちだよ!

土曜11Rメイステークス…センゴクシルバーからアイルトン&シャマードシンボリ、シェア
リーウイン、バンブーフエリーニへ4点買い

日曜5R駒草賞…イブキダイハーンからインディードスルー、キョウトシチー、ハシノホホ
エミ、ミヤノオーへ4点買い

日曜6R青嶺賞…スピードエールから手広く

日曜8Rむらさき賞…ロイスアンドロイスからカサブランカシチー、ナリタブファースト、ノ
ーブルアクション、ハシノハヤト、ベルシャルマンテ、マルカカルメ
ン、リキアイアクトレス、ロイヤルシャダイへ高配当間違いない!

予想者 ラッキー桑島

ラッキー桑島の自信なし!(本当に自信が無くなってきた…毎年かかる五月病)

心わくわく気持ちうきうきとうとうダービーがやって来た。選ばれし18頭の一生に一度の
晴れ舞台、5月29日には頂点に立つ馬が決まる。中心はやはりナリタブライアンを取らざる
を得ないだろう。夏の過ごし方や成長の早さで秋には勢力分布は多少変わるが、春先はちょ
っとやそとで馬の實力は変わらないことが過去のレースが示している。アイネスフウジン
やテイオー、ブルボンなど強い勝ち方を続け、さらに強力な運がなければダービーは勝てな
い。兄は惜敗が続いたように運が少し足りなかったが弟は長距離輸送できついローテーショ
ンだろうが雪でレースが延びようがフルゲートの1番枠だろうがいずれもものともせずに勝
ってきた。ヤネも男度胸の南井である。死傷は無い。相手だがNコクオーも強いがあえて流
行りのトニービン×老舗のニジンスキーという計り知れない凄さを感じさせるエアダブリン
をとりた。確かに本格化は秋以降だろうが名手岡部が丹念にレースを覚えさせ、青葉賞で
は馬にダービーに勝つ乗り方を教え込ませた。(こういった岡部の騎乗方法・馬の育成につ
いても木馬会で語り合いたい)騎手と馬との数字には現れない関係に競馬の魅力を感じる。

配当を考えたら上記1点勝負だが、敢えて狙うならば、良血のアイネスサウザー(今年の
ダービーはほとんどの有力馬がノーザンダンサーの血をひく)と狂乱の回しムチ・いつも期
待と反比例の太が操るサクラエイコウオーの狂い咲きに夢を見るのも悪くない。

今週の公式

直前のNHK杯で強い勝ち方だった良い末脚で伸びた馬×本番で人気=4着どまり

『今年のダービーではナリタブライアンが圧倒的な一番人気に押されることは先ず間違いない。その実績からは至極当然であり、京都3才Sレコード勝ちからの5連勝はすべて3馬身以上ぶっちぎりの楽勝レース。ここでも横綱相撲を見せることは必至。第61回の栄光のダービー馬はナリタブライアンで鉄板。』というのが大方の予想だろう。確かにブライアンは強い。前5走はあきれるぐらい強かった。でもちょっと待ってほしい。ブライアンとて4本脚で走るサラブレッドに変わりはない。他馬よりちょっと(?)実績が上なだけ。たまには取りこぼしがあっても不思議じゃない。現に本格化する前といえ、函館3才Sでは6着と歩いているのではないか。そこで一考。デビュー後11戦目を迎えるダービーでは疲れもピークに達し、距離も自身初の2400。今回は末脚届かず3着に惜敗。馬券の対象からは外れると大胆かつ勝手に解釈させてもらう。ではブライアンにとって変わり第61回の栄光のダービー馬に君臨するサラブレッドはどの馬か。それはずばりオフサイドトラップだ。重賞初挑戦のさつき賞こそ7着と惨敗したもののそれまでの実績は3連勝を含む5戦5連対。4戦目のセントポリア賞ではあのオークス馬チョウカイキャロルを蹴した実績も光る。打倒ブライアンの一番手と見る。ひもにはダービーと同コース、同距離の青葉賞を買ったエアダブリンを指名する。ヤネも名手岡部とあってはよもや惨敗は許されまい。実績的にはナムラコクオーも有力だが、NHK杯の勝馬はダービーで走らないというジンクスと追い出しの名手南井がブライアンに乗り変わりということから大きく減点。今回は見送る。以上から本命はオフサイドトラップ。ひもにはエアダブリンが本線。押さえにブライアンとアイネスサウザー。あとはオッズとにらめっこして投資金額を決定する。

- ◎…ナリタブライアン ○…オフサイドトラップ ▲…ドラゴンゼアー
△…アイネスサウザー △…スギノブルボン △…ヤシマソブリン
☆…岡部幸雄
…予想者の屁理屈…

私は、ナムラコクオーがナリタブライアンを負かしにいく競馬をするので、配当も低いことだし、あえて抜けにしてみました。ごめんなさい。

私は、オークスも負けてしまい、安田記念も外しているの、多分また、負けるでしょう。

自己紹介

経理部経理課決算班の小田利之です。不東東なのですがよろしくお願いします。身長182センチ 体重75キロです。好きな馬は、ダイナバトラーとシスタートウショウでした。

昨年の会心レースは、新潟記念と中京記念でした。

ミホノブルボン

はヒーローになるために生まれてきた

今年も無敗の皐月賞馬が誕生した。だが、スプリングSで7馬身差、皐月賞で2馬身半差の圧勝劇を演じたにもかかわらず、なぜかミホノブルボンにはずば抜けて強いというイメージがない。ブルボンの父はマグニチュード。その産駒はそこそこ走るが距離に限界があり、2000メートルを越えて良績を修めた馬はあまりいない。そのことが常にブルボンに距離不安を感じさせる。また、主戦騎手が目立つことのなかった中堅どころの小島貞騎手。確かにこれも強いと感じさせない理由の一つだ。(普通これほどの馬にはそれなりに勝ち星の多い騎手を乗せるものである。) また、顔は小さく、一筋の流星を引いて可愛らしいといった表現がぴったりである。このように本当に強いのかどうか良くわからないと思わせることは、ヒーローになるための必須条件だと思う。

最近のヒーローといえどももちろんオグリキャップ。(トウカイテイオーもメジロマックインもヒーローという感じじゃない。) 彼は常に距離が伸びた際の不安を感じさせていたし、そこからじゃ無理だろうというような位置から豪快に差し切ってみせたりした。つまりいつでも人に今度は駄目だろうと思わせるのだ。ところがその予想を完全に覆すようなファイト(彼の走りはファイトと呼ぶに相応しい)を見せたものだ。それが人を感動させる、人を泣かせる。ブルボンとオグリは、逃げと差しというようにレースのタイプは違いますが、その血統的背景から、距離が伸びれば伸びるほど人々に不安をつのらせる。しかし、それだからこそ勝てば勝ったで人気は上り、負けても、一生懸命やったんだけどなぁと共感を呼ぶ。そしてオグリキャップと同様に、生まれてきた背景も判官びいきの日本人の琴線を弾く。

ミホノブルボンは繁殖牝馬日頭という小さな牧場で生まれた。繁殖牝馬の中にも階級があって、母のカツミエコーは下から2番目なのだそう。その母から生まれたブルボンはそのためあって、いつも群れの後ろをとぼとぼついていくような馬だったらしい。その落ちこぼれがスパルタでなる戸山厩舎にきて見逃されるように強い馬になった。そしてその強さが母カツミエコーの命をも救った。カツミエコーはブルボンを産んだ後2年連続で不受胎。小さな牧場ではその様な牝馬を持ち続けるわけにはいかない。あと一年だけおいて駄目だったら処分(食肉になる)してしまおうというときにこの息子の快進撃。親孝行な息子である。

皐月賞の表彰台にのぼった生産者の原田圭二さんは、着慣れぬ背広を着て、緊張で体を強張らせながら本当に優しい目で、自分の知っていた馬ではなくなり、もう皆のヒーローへと変貌をとげているブルボンを見つめていた。「彼はまだ私を覚えているだろうか? 小さいながらも皆一生懸命だったあの牧場を覚えているだろうか。」ブルボンは忘れてなんかいない。牛のようにおとなしく周囲をパドックで、彼はいつも生まれ故郷、そして母のことを思い出している、僕はそう思っている。ブルボンはファンだけでなく路がる人をも感動させる。デビュー以来ブルボンに騎乗してきた小島貞騎手は22年目にして初めてのクラシック制覇。年間平均20勝弱という寡黙で地味な40歳の中堅騎手にとってブルボンは初めて出会った名馬

だった。彼は、ありがとう、ありがとうと何度も繰り返し、「ブルボンが男にしてくれた。」とこぼれる涙を隠そうともしなかった。こんなにも周りの人々を感動させるブルボンは、自分を目立たせるのは苦手でも人を引き付ける魅力に長けている。無敗の皐月賞馬なのに、彼の周りには殺気立った雰囲気がない。あたたかな、そして優しい空気が漂っている。

5月31日、東京優駿発走。この日はブルボンが国民的ヒーローになる日である。勝ち負け関係なくヒーローになる日である。でも、やっぱり僕はブルボンに勝ってもらいたい。鮮やかに、信じられないようなスピードで逃げ切ってもらいたい。見事に逃げ切ったとき、東京競馬場は“ブルボン・コール”に揺れるだろう。そのときは少しぐらい誇らしげにしてもいいさ。でも君も微笑みながらいいことがあるはずだ。だから僕は君に変わって小さな声で、“原田・コール”と“小島・コール”を送ろう。そして北海道で暮らす母には君だけが声援を送るがいい。

92.5

さて春の競馬シーズンも何時の間にか終りに近付いています。6月11日から始まる札幌競馬では早くも3歳馬がデビューし、来年のダービー、オークスをめざす事になります。そこで、先日より回覧しております一口馬主資料を3歳馬がデビューする前に全員に回覧していただきたいと思います。一人2、3日で宜しくお願い致します。

来週は史上最強牝馬（と私は信じている）ヒシアマゾンが登場。
NZトロフィー特集です。